

お答えします! よくあるご質問FAQコーナー

■ガイド業界について

1. プロのガイドになるには通訳案内士試験に合格しただけではダメなのですか?

技術や知識が十分あればOKです。しかし、国土交通省は通訳案内士がスキルアップの研修を受講することを強く推奨していますので、受講証明が就業にはほぼ必須になっているのが現状です。

今、仮に業務依頼が来たとしましょう。未知の客に対し現場でどのように動けば良いかすべて心得ているという自信が貴方であれば大丈夫です。が、医師も弁護士も国家試験に合格したからと言ってすぐに心臓手術をまかせられ、法廷に立てるでしょうか?適切な研修を受講して研鑽を積んだ人のお世話になりたいと顧客は一般的に考えます。ピンからキリまで技術の格差が激しいといわれる通訳ガイド業では、しっかりスキルを習得してからのプロデビューが長い目で見れば成功への鍵と言えましょう。

2. 通訳案内士として登録したあとの、具体的な動き方を教えてください。

実務研修を受講することをお勧めします。実際に現場の業務に対する適性があるのかどうかを判断することができるでしょう。就業を目指す場合にはさらにレベルの高い研修で自己研鑽を積みながら、自分をアピールする営業活動をするのが一般的です。仕事は受講後すぐでなくても、何年後か自分の体制が整った時点でスタートを切っても良いのです。

3. ガイドの団体が複数あるようですが、どう違うのかを教えてください。

ガイド団体は、1,000名規模で会員を擁する社団法人、数百名規模の協同組合、数名~数十名による新しい組織など全国に様々多様に発生しています。

GICSSは1999年創立の任意団体が2005年にNPO法人となりました。母体組織は1982年から通訳ガイド技術の実務研修を実施し、1993年から本格的な大型研修に携わってきた背景のある「技術研究&研修を中心とする専門組織」です。他の組織と異なる特徴は、学際的に幅広い分野と視野から練り上げた常に新しく効果的な訓練手法やアイデアを取り入れる柔軟性があることです。その人材育成プロデュース力によって、秀逸な通訳ガイドを20年余に渡り業界に輩出しているという定評があります。

4. ガイド業に就くには、必ずいずれかの団体に所属しなければならないのですか?あるいはそれがベターなのですか?

所属する義務はありません。また所属するのは一つの団体に限定する必要もありません。それぞれの団体のメリットを享受するために複数の団体に所属する方も多いです。が、情報交換やネットワーク作りの大きなメリットがあります。各団体に特徴がありますから、その考え方や哲学をきちんと把握して自分に役立つと考えれば積極的に活用して自分の世界を広げることが得策でしょう。

■ GICSSについて

1. GICSSはボランティア団体なのですか？

GICSSはNon-Profit Organization、特定非営利活動法人です。ボランティア団体ではありません。我が国におけるNPOの実態は2, 3名で趣味サークル的に運営されているものから国境を越えて災害地に医師団を派遣する世界的大規模な組織まで様々なものがあります。

GICSSは専従の職員を配置し、質の高い研修他のイベント運営を行っています。会員や社会一般に貢献する非営利の公的法人組織なので、会員のボランティア精神も自発的に発揮され、生涯活動の一環として様々な活動が展開されていることも大変意義あることです。

2. GICSSには資格をもった会員がいないのですか、あるいは少ないのですか？

約96%の会員が有資格者です。異なった立場で技術研鑽に賛同支援下さる会員もほとんどが1~2年で有資格者となっています。GICSSは1976年から現場で活躍し、通訳ガイドの仕事や旅行・通訳業界全体の姿を知り尽くしたベテランガイドたちによって設立され運営されています。

3. 有資格者以外が入会していれば正式なガイド団体と言えないのでは？

GICSSは、1994年に国土交通省への届出が受理された正式な通訳ガイド組織です。代表的な通訳ガイド団体の一つとして、国土交通省からガイド・スキルアップ・プログラム策定の委員を任命されたり、通訳ガイドスキルアップ研修実施団体として認められていることがその証明です。NPOは公的組織なので、法律により組織の趣旨に合う人は基本的にだれでも受入れるようにとの指導があります。一方ではGICSSでは、たとえ有資格者であっても入会時には「通訳ガイドの技術や周辺技能の総合的な研鑽によって、通訳ガイドの総合的な実力と意識の向上を、品位を持って目指す」という会の考え方を伝え、入会希望者の賛同意志を理事が確認するという厳しいチェック制度を実施しています（特定の研修受講者については例外あり）。現場のガイド業務経験が豊富とは考えにくい国家試験合格直後の資格者が少人数集まった組織であってもガイド団体として認識されます。実質的に「本格的かつ充実したGICSSをガイド団体でない」とするのであれば、その実態の把握力と見識レベルが疑われるのではないのでしょうか。

■ 研修について

1. 多くの団体が「新人研修」を行っていますが、研修の特徴をわかる範囲でおしえてください。

GICSSは、ガイド技術の教授法や訓練手法についても研究を重ねている研修のプロです。ガイドのやり方を示すだけでなく、『受講者自身がガイドできるようになるよう訓練する』完成度の高い独自のプログラムを組み込んでいます。それは個人指導を含む参加型の研修であること、そして独自の評価システムに集約されます。受講者からよく「ここまで手の内を教えてもらっていいんですか？」という声を聞きます。受講者の満足度が高いのは各講師が長年苦勞して築きあげてきたノウハウを惜しみなく提供し、さらに各受講者の個性を重視し、100人100様のオリジナルガイドスタイルを確立してゆくサポートを目指すからです。

「研修」のプログラムは、通訳ガイド学の基礎を築くべく異文化情報学博士号を取得した理事長の学術的な裏付けと業務体験にもとづき、教材、ツール、手法などが盛りたくさん効果的に配置されています。

2. GICSSの新人研修は座学中心なのですか？現場実習はないのですか？

全体の約70%が座学、座学のうち27%が実習トレーニングです。現場研修は全体の約30%ですが、現役講師のモデルガイディングだけでなく受講生の実習発表の機会もあるので、今後ガイドの仕事をする人もしない人も、実際のガイド体験ができる貴重なチャンスとなります。現場研修については、著名観光地のバス研修などを、年間を通して随時開催しています。

3. 座学は無駄だという意見もあるようですが、それでも座学中心に新人研修を組んでいる理由をおしえてください。

ガイドは永遠に勉強を続けなくてはならない仕事です。GICSSの研修はその学習法を習得するチャンスと捉えて下さい。現場は、後からいつでもじっくり自分で下見に行くことができます。外国人客用の一般パッケージツアーに客として参加するのも外国人の反応が観察できるので効果的です。初めて出向く現場で説明ばかり聞いていては、景色や建造物をよく見る時間が不足します。まずは地図も配置もルートも頭に入れ、現場で何をどこで説明するのかを頭に叩き込んでから実際に足を踏み入れるのがGICSSの新人研修のやり方です。その効果は実証済み。ぶっつけ英会話でなく、文法の基礎も同時に叩き込めばより高い語学レベルが目指せるのと同じです。

4. 新人研修だけでガイドになれるのですか？ その後はスキルアップ研修のようなものはないのですか？

優秀なガイドであるほど、その後の研修を数多く参加しています。GICSSでは、国際接遇のプロトコルや、緊急医療&ガイドの心得るべき応急処置法、仏教や神道をガイドするエッセンス、日本文化の真髄ガイド、中級上級コース、異(多)文化コミュニケーションスキルほか様々な研修機会があります。

5. 研修以外に、自己研鑽のしかたがあるなら、おしえてください。

知識や技能に個人差があるので一概にお答えができません。研修参加ができなかった先輩達は、何年もかけて失敗や成功を繰返し、試行錯誤で技術と知識をマスターしてきました。

6. 実際の仕事の前に下見が必要であるときいたことがあるのですが、本当ですか？ 費用は自己負担なのですか？

優秀なガイドはできる範囲で下見をします。時間とお金と労力は自己投資ですが、見合った結果が反映されます。特殊なイベントなど、業務によっては下見の費用が個人負担ではなく顧客によって支払われる事もたまにあります。

7. インバウンド研修というのがありますが、どういう内容のものですか？

通訳ガイド業務の実際は、外国語を話して解説をするガイディングとお客様の旅行を安全に予定通り進める支援作業(添乗業務)との2つの要素から成り立ちます。切符の扱いや引率・随行には旅行会社の社員に準じた知識が必要です。特に文化の異なる外国人を扱う場合には特別な配慮事項もあり、それらをまとめたものをGICSSでは『インバウンド添乗業務研修』と位置付けています。

8. 英語に自信がないのですが、(ガイドになるための)英語力アップのための研修プログラムはありますか？

GICSSは語学学校ではないので、お客様に対する接客敬意表現、最低心得ておきたい医療用語、障害者向けの表現注意などは研修に含まれても(英語のみ)、語学そのものの研修プログラムは設けていません。

しかし、2008年春からは、ベテラン通訳ガイドおよび業界に通じた英語ネイティブスピーカーによる個人&小グループレッスンもスタートいたしました。

■仕事の斡旋について

1. GICSSでは仕事の斡旋をしていますか？

GICSSの事務局あるいは、関連の人材派遣会社を通じて行なっています。また、一人前の通訳ガイドとして飛躍する準備研修の一環としてOJT (OnTheJobTraining) System現場研修ツアーに出させていただくチャンスもあります(必要条件を満たした方のみ:人数限定)。

その他、国際会議受付け、旅行業界の見本市や展示会、国際イベントでの通訳や語学スタッフなど新人の「初めの一歩」を応援し、国際コミュニケーター&接客関連業務で活躍いただく為の派遣実績もあります。

2. どのような形で、あるいは基準で斡旋して下さるのですか？ GICSSへの登録が必須になりますか？

GICSSの新人研修を受講されて実力レベルが確認され、また諸条件に合わせてご紹介しています。実力に合わせて業務の結果をフィードバックしながら成長を見守ってゆく方式です。実力や人柄・性格などを確認しないまま安易に仕事に結び付ける事は致しておりません。会員登録は必須です。

3. ガイドで生計をたてるのは難しいですか、無理ですか？

無理ではありませんが、ガイドだけでは困難なケースが多いようです。実力や適性に個人差がありますので一概には言えません。兼業できる職業があると継続がしやすく心強いと思います。

4. ガイドに年齢制限はありますか？ 明文化されていなくても、不文律のようなものがありますか？

年齢制限はありません。健康であれば70才を超えても年間150日稼働するベテランもいます。しかし、1日の労働時間が長時間に渡る場合も多く、年齢が若くても物理的、身体的に厳しい業務もあります。自分にあった仕事に出会う「運」も関係するかもしれません。労働条件は決して楽ではないので、この業務が好きな人だけが業界に残っている現実があると言えます。

5. 現在の仕事をやめるかどうか悩んでいるのですが、かけもちは無理でしょうか。

現場に出てみないと、自分がどの程度ガイドとして働けるのか判断しにくいと思います。仕事を辞めてしまうと経済的なリスクが高いので、しばらくはかけもちの方法で様子を見るのが無難ではないでしょうか。